

PARNASSIUS

No. 10

目 次

“淡路島の蝶相”を書き終えて	登日邦明	1
諭鶴羽山でクロシオキシタバ	堀田 久	1
淡路島のミドリシジミについて	堀田 久	2
南淡町でトラフシジミを採集	藤平 明	4
洲本市でリュウキュウムラサキ	坂口 操	4
淡路島のクワガタムシ	堀田 久	5
淡路島のカミキリムシ追加(1)	堀田 久	6
淡路島でオオヒヨウタンゴムシを採集	堀田 満	7
洲本市でヒメヒラタタマムシ	堀田 久	7

淡 路 昆 虫 同 好 会

1 9 7 3

“ 淡路島の蝶相 ” を書き終えて

登 日 邦 明

筆者は先に、現在までの調査のまとめとして淡路島産蝶類69種について報告したが、まだまだ調査不足の感が強く不備も目につく。今後、本島から見出される可能性がある若干の種についてふれてみると、まずシジミチョウ科ではトラフシジミ^{**}、コツバメなどの分布が考えられ本島の南部ではヤクシマルリシジミ、キリシマミドリシジミ、ルースシジミなども予想される。また、タテハチョウ科ではイシガケチョウ、オオウラギンスジヒヨウモンなどが、シロチョウ科ではスジボソヤマキチョウ、ジャノメチョウ科では北部の湿地にヒメヒカゲが分布するものと考えられる。さらに、北淡路でのギフチョウの調査も一度入念に行ってみる価値があるであろう。さらに報文中にも記したようにヒメシジミを初めとする再発見の望まれるものも数種あり、今後共同好者諸氏の協力によって淡路島の Fauna を明らかにして行きたいと考えている。

ここ数年来、淡路島では土砂採取などによって山膚が削り取られ、北淡町・東浦町・西淡町などでは目にあまるものがある。本年秋季より着工予定の本州-四国連絡橋・明石~鳴門ルート^{*}の決定と、それに伴う道幅30mに及ぶ縦貫道路の建設がさらに本島の自然破壊に拍車をかけようとしていることは周知の通りである。私共の生活環境のあり方が社会問題として大きくクローズアップされてきている今日、このように現状でも決して豊とは云えない自然を荒廃させることに、筆者ははなはだ疑問を持つ。私は当局の深い反省を期待しながら、こうした環境の生物相の解明に早急なる総合調査の必要性を強く指摘しておきたい。 (v , 1973)

* 住香蝶 (名古屋昆虫同好会刊) に投稿中

** 今春、南淡町灘において藤平明氏により発見された。

~~~~~

### 諭鶴羽山でクロシオキシタバ

1973年8月1日、三原郡南淡町灘黒岩から旧道を諭鶴羽山に登り、帰途は灘山本へ降りたが、どちらの道沿いにもクロシオキシタバ *Catocala kuangtungensis* が多く、数十頭を目撃した ( 6 ex . 採集 ) ので報告しておく。なお、キシタバは全く見かけなかった。

( 堀田 久 )

# 淡路島のミドリシジミについて

堀 田 久

ミドリシジミは、近畿以北では山地・平地共に広く分布するが、中国や四国では山地性となり、九州においては九重山塊にのみ分布する。淡路島は本州と四国の中間に位置するため、本種の分布については極めて興味深いものがある。

筆者は1946年6月に洲本市安乎町において1♂を採集したが、その後西宮市に転居したため詳しく調査する機会がなかった。数年前から郷里の淡路島に帰り、何度か本種を目撃したが、特に今年は終令幼虫と成虫をかなり採集したので、これまでの知見を報告しておきたい。

## 1. 分布と食樹

これまでに確認した産地と、それぞれの地点の標高は次のとおりである。なお、津名郡津名町大町畑は登日邦明氏の記録で、他はすべて筆者が確認したものである。

|              |       |             |
|--------------|-------|-------------|
| 洲本市安乎町南      | 90 m  | (幼虫, 成虫)    |
| 洲本市安乎町中田     | 20 m  | (幼虫, 蛹, 成虫) |
| 洲本市安乎町北谷     | 50 m  | (幼虫)        |
| 洲本市中川原町三木田   | 50 m  | (幼虫)        |
| 三原郡南淡町大日ダムの下 | 120 m | (幼虫)        |
| 津名郡津名町大町畑    | 65 m  | (成虫)        |

このように淡路島では平地や低山地に産し、発生する個体数も極めて多い。なお、これまでに確認した食樹はハンノキで、これは川原、池畔、沼などの湿地や田の畦などに多く自生している。今までの調査から推定して、本種は島内各地のハンノキ林に発生しているものと考えられる。

## 2. 成虫の出現期

成虫の出現期は、同じ地域でも年によってある程度の違いがあるが、淡路島における本種の発生は、阪神地方に比較するとかなり早いように思う。次にあげたのは、これまでの成虫の採集記録である。

1946年6月10日 洲本市安乎町南 1♂

|           |          |       |
|-----------|----------|-------|
| 1973年6月1日 | 洲本市安乎町南  | 1♂    |
| 1973年6月3日 | 洲本市安乎町中田 | 5♀    |
| 1973年6月3日 | 洲本市安乎町南  | 9♂3♀  |
| 1973年6月9日 | 洲本市安乎町南  | 17♂6♀ |

### 3. 雌の各型の出現率

ミドリシジミの♀の翅表は変異に富み、翅表が一様に暗褐色のものをO型、前翅中室外方に橙色斑を持つものをA型、前翅基半に青色斑を持つものをB型、橙色斑と青色斑の両方を持つものをAB型と呼んで区別している。各型の出現率は産地によって異なり、北海道ではB型やAB型が多く、中部以西の本州ではO型が多いということである。

本年度、洲本市安乎町において採集した(終令幼虫から飼育したものを含む)ものについて、各型の出現率を調べてみたところ次のような結果を得た。

なお、前翅表面の青色斑には、極めて顕著なものからわずかに青色鱗を持つものまで、連続的な変異がみられるので、中室に青色斑が少しでも認められるものはB型に入れることにした。したがって、O型といっても一様に暗褐色ではなく、すべての個体の翅表に多かれ少なかれ青色鱗が散在している。

| 雌 型          | 個体数 | 出現率(%) |
|--------------|-----|--------|
| O型(暗褐色)      | 14  | 40     |
| A型(橙色斑)      | 8   | 23     |
| B型(青色斑)      | 8   | 23     |
| AB型(橙色斑と青色斑) | 5   | 14     |

### 4. 蛹化場所と寄生率

本種の蛹化場所については、図鑑類にも記載されていないようである。一度確認したいと思っていたので、今年の5月から6月初旬にかけて、食痕のみられるハンノキを多数調べたが、葉や枝、幹には蛹は全く見られなかった。6月1日に洲本市安乎町中田で、川原のハンノキの根本を探したところ、落葉の中から本種の蛹(羽化直前の♀)が見つかった。なお、ペトリ皿で飼育すると大部分は葉に糸をかけて蛹化し、一部のものはペトリ皿に糸をかけて蛹化した。本年35頭の幼虫を採集して飼育したが、このうち5頭が寄生されていたので、寄生率は約14%になる。

## 5. まとめ

これまでに調査した地域は島内の一部であり、採集した個体数も少ないため、これだけで淡路島のミドリシジミについて論じることはできないが、今までの調査から次のようなことが言えると思う。

- (1) 淡路島では、平地や低山地のハンノキ林に棲息し、個体数は極めて多い。このような分布は近畿以北と共通であり、四国の分布状況とはかなり違っている。
- (2) 成虫の出現期は年によって差があるが、阪神地方に比較すると、約1週間程度発生が早いようである。
- (3) 雌はO型が最も多いが、A型、B型、AB型もそれぞれ出現する。なお、O型やA型に入れた個体にも青色鱗がみられる。
- (4) 前後翅裏面の地色は一般に濃色で、阪神地方の個体との差異は認められない。

### 参考文献

1. 白水 隆(1965) 原色図鑑日本の蝶, 北隆館
2. 藤岡和夫(1972) 図説日本の蝶, ニューサイエンス社
3. 堀田 久(1956) 淡路島の蝶類, 兵庫生物Vol. 3, No. 3

---

### 南淡町でトラフシジミを採集

淡路島から未記録のトラフシジミを、南淡町で採集したので報告する。

(1) 三原郡南淡町灘大川 1 ex. 1973年4月18日

(2) 三原郡南淡町阿万上町 1 ex. 1973年5月5日

なお、南淡町灘ではもう1頭目撃しているの、当地方にはかなり発生しているものと思われる。

(藤平 明)

### 洲本市でリュウキュウムラサキ

1959年8月20日、洲本市宇山で梅本晃義氏が、リュウキュウムラサキ1♂を採集しておられたことがわかったので報告しておく。藤平氏の採集例は1968年であるためこれが淡路島で最初の記録になる。なお、標本は梅本氏が保管されている。

(坂口 操)

## 淡路島のクワガタムシ

堀 田 久

淡路島のクワガタムシについては、1959年に発表したことがあり(兵庫生物, 3巻5号) また、本誌 No. 5, 6 (1968) には三浦照章氏が、ノコギリクワガタ、ヒラタクワガタ、コクワガタの3種を報告されている。

その後の採集品を加えて、淡路島産のクワガタムシは6種類になったので、これまでの知見を述べておきたいと思う。なお、次にあげた採集記録は、すべて筆者自身が採集し現在所有する標本によるものである。

### クワガタムシ科 LUCANIDAE

1. ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* Motschulsky  
先山, 1♀, 8. VIII, 1951, 1♀, 3. VIII, 1952, 1♀, 12. VIII, 1952,  
1♂, 11. VII, 1965  
先山には普通に産するが、他ではまだ採集していない。本種は昼間クヌギの樹液に集まり、また樹上にもよくみられるが、夜間灯火に飛来することもある。
2. ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus* Motschulsky  
津名郡津名町志筑, 1♂, 5. VII, 1950; 先山, 1♀, 1. VIII, 1967;  
洲本市安乎町, 1♀, 10. VI, 1970  
島内の各地に産し個体数もかなり多い。本種は昼間でもクヌギやヤナギ等の樹液に集まるが、やはり夜間によく活動する。
3. ヒラタクワガタ *Dorcus titanus* Boisduval  
津名郡津名町志筑, 1♂, 20. VI, 1950; 洲本市安乎町, 1♂1♀, 6. VII, 1973  
島内の各地に産し個体数も多い。本種は昼間クヌギの樹の洞などにひそみ、夜間には外に出て活動する。
4. コクワガタ *Macrodorcas rectus* Motschulsky  
先山, 1♂1♀, 8. VIII, 1970; 洲本市安乎町, 1♂1♀, 6. VII, 1973  
島内の各地に産し個体数は最も多い。昼間でも活動することがあるが、おもに夜間樹液に集まり、また灯火にも飛来する。
5. スジクワガタ *Macrodorcas binervis* Motschulsky

先山, 1♂, 8. VIII, 1951; 洲本市安乎町, 1♀, 6. VII, 1973

コクワガタに混じって樹液に集まるが、個体数はコクワガタよりも少ない。洲本市由良町でも見たことがあり、島内の各地に産するものと思う。

6. ネプトクワガタ *Aegus laevicollis* Saunders

先山, 1♀, 8. VIII, 1970

先山にも少ないようで、他ではまだ採集していない。1950年にも先山で1頭採集したが、現在標本は残っていない。

クワガタ類の成虫越冬について

オオクワガタなどは成虫でよく越冬し、いくつかの報告例がみられる。筆者は、昨年夏洲本市安乎町で採集したヒラタクワガタ、コクワガタ、スジクワガタ、ノコギリクワガタと長野県で採集したアカアシクワガタをそれぞれ数頭ずつ、クヌギの朽木を入れた水槽で飼育してみた。今年の1月初旬にみるとコクワガタ、スジクワガタ、アカアシクワガタ計6頭が生き残っており、6月初旬にはコクワガタ1♂1♀, スジクワガタ1♀だけになった。なお、この3頭は現在も生きている。 (5. VIII, 1973)

淡路島のカミキリムシ追加 (1)

堀 田 久

筆者は、淡路島のカミキリムシについて本誌 No. 8 に発表した。それは筆者と登日邦明氏の保有する標本だけをもとにしたものであった。その後新たに採集したものと、文献によるものを併せると5種類が追加され、淡路島のカミキリムシは丁度50種を数えることになったので、ここに報告しておく。なお、本稿を草するに当たり、いろいろとご教示いただいた辻啓介氏に深謝の意を表したい。

1. ニセノコギリカミキリ *Prionus sejunctus* Hayashi

洲本市上灘中津川, 1♀, 15. VIII, 1972

蛾類の夜間採集を行っていたとき、螢光灯に飛来したものである。

2. トゲヒゲヒメカミキリ *Allotraeus rufescens* (Pic)

洲本市安乎町, 8♂4♀, 17~30. VI, 1973

採集品は、いずれも筆者の自宅の灯火に飛来したものである。

3. チャイロヒメカミキリ *Ceresium Simile* Gahan

長尾悟氏が、1968年8月3日、淡路島南部海岸のフェリーポート港で蛍光灯に飛来した1♂を採集された。「昆虫と自然」Vol.4, No.5 (1969)

4. ヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber* (Bates)

水沼哲郎氏が、先山で1頭採集された。「甲虫ニュース」No.10 (1970)なお、これは辻啓介氏よりご教示をいただいたもので、筆者はまだ文献をみていない。

5. ヒゲナガモモフトカミキリ *Acanthocinus griseus* (Fabricius)

登日邦明氏が、1972年7月7日、常陸寺山山頂の常陸寺境内で灯火に飛来した1♀を採集し、本誌 No.9 (1973)に、スジマダラモモフトカミキリの和名で発表されている。(29. VII, 1973)

\*\*\*\*\*

淡路島でオオヒヨウタンゴミムシを採集

南淡町の阿万吹上キャンプ場で、オオヒヨウタンゴミムシ *Scarites sulcatus* Olivier を1頭採集した。本種は四国や和歌山には多いようであるが、淡路島では珍しいと思うので報告しておく。

採集年月日： 1973年8月1日

採集場所： 三原郡南淡町阿万吹上ノ浜 教育キャンプ場

なお、採集した個体は、体長が43mmもあり、夜間テント近くの砂上を歩いていた。(堀田 満)

洲本市でヒメヒラタタマムシ

1973年5月25日、洲本市由良町の生石海岸で、ハマウドの花に来ていた、ヒメヒラタタマムシ *Anthaxia proteus* E.Saunders を多数採集した。なお、採集品には体背面が暗色になった個体も多く混じっている。本種は、日本全土に分布するごく普通のものであるが、筆者は、これまで淡路島では採集していなかったので報告しておく。(堀田 久)

\*\*\*\*\*



## 編 集 後 記

本当に暑い毎日ですが、会員の皆様にはお変わりなく採集に研究にご活躍されていることと思います。

本年度は、是が非でも会誌の年2回発行を実現したいと考え、頁数は少ないのですが、10号をお届けします。秋には11号を発行する予定ですので、連絡誌の分も併せて原稿をどしどしお送り下さい。

なお、印刷費も次第に高くなりますので、経済的な理由から表紙の体裁を変えましたのでご了承下さい。 (堀田)

### PARNASSIUS No.9 正誤表

|      |      | 誤             | 正       |
|------|------|---------------|---------|
| P. 2 | 5行目  | 洲本市 <u>金平</u> | → 前平    |
| P. 9 | 13行目 | <u>淡路からの</u>  | → 淡路島から |

### PARNASSIUS No.10

発行日 1973年8月15日

編集者 堀 田 久

発行所 淡路昆虫同好会

(事務所) 洲本市安乎町北谷 堀田 久方

印刷所 れいめい社

洲本市本町五丁目1番24号